

# 第9回大会の概要と総括

2011年2月19日  
運営委員会  
森下哲朗

# 1. コンペティションの目的

- ・社会における交渉・仲裁の重要性と、その更なる高まり
- ・国際化と諸外国における交渉・仲裁についての実践的教育
  - ⇒交渉・仲裁等について優れた能力を有する人材の育成の必要性
  - ⇒学習のインセンティブの提供、教室の授業では得ることのできない「何か」を得る機会

## 2. 第9回大会の概要

### 第9回大会

- (1) 日時 平成22年12月4日(土)、5日(日)
- (2) 会場 上智大学
- (3) 後援 住友グループ広報委員会、ホワイト&ケース法律事務所、Chartered Institute of Arbitrators, Japan Chapter, 社団法人日本仲裁人協会、上智大学、外務省
- (4) 参加校 17校より260名が参加

# 3. 第9回大会のプログラム

## <12月4日>

- 12:00 開会式
- 13:00 ラウンドA(仲裁)
- 17:00 ラウンドA終了
- 18:00 懇親会

## <12月5日>

- 9:30 ラウンドB(交渉)
- 13:30 昼食・ティータイム
- 15:00 パネル・ディスカッション
- 15:45 閉会式

## 4. 参加者の推移

	TEAMS	Japanese	English	Participants
1(2002)	4	4	4	74
2(2003)	8	14	8	129
3(2004)	12	20	12	173
4(2005)	14	24	14	205
5(2006)	15	24	16	209
6(2007)	16	24	18	250
7(2008)	16	30	20	260
8(2009)	16	30	18	240
9(2010)	16	32	20	260

\* 第5回よりオーストラリアが参加(第5回は2大学、第6回は3大学、第7回は1大学、第8、9回は2大学で参加)

# 5. 審査員

＜審査員団＞ 1対戦を3名で審査。仲裁では仲裁人を兼ねる。3名のうち1名はOB・OGも。

(カッコ内は昨年)

・企業等	21名(22名)
・裁判官	10名(8名)
・弁護士(外国法弁護士を含む)	28名(24名)
・大学教員	25名(17名)
・OB・OG・若手	27名(26名)
合計	111名(97名)

## 6. 第9回大会の様様

住友グループ広報委員会が製作してくださっている記念DVDの一部より。

# 7. アンケート結果

「本コンペティションに参加してよかったですか？」

- ▶ とてもよかった 167名(86%)
- ▶ よかった 27名(14%)
- ▶ まあまあ 1名(0%)
- ▶ あまりよくなかった 0名(0%)
- ▶ 参加しないほうがよかった 0名(0%)

「仲裁においては論理的な議論のトレーニングを、交渉においても話し合いを通じて相手のニーズを探り、そのうえで自分たちの提案をするというトレーニングになった。」

「仲裁、交渉についてももちろん学べますが、人間関係、忍耐力、そして「人間力」を学ぶことができた素晴らしい機会であった。」

「仲間と過ごす2ヶ月間がかけがえのない思い出になりました。また実務で仲裁・交渉に携わっている方々との交流は非常に貴重な機会でした。」

# 7. アンケート結果

## ▶ 様々なご意見

- ・問題は難しかったが、やりがいがあった
- ・交渉の論点が多かったのではないか
- ・問題の修正の期限を定めたらよいのではないか
- ・仲裁と交渉の準備書面の提出日は別の方がよい
- ・交渉の準備書面の字数が少なく抽象的になってしまう
- ・審査員が非常に素晴らしく、コメントも勉強になった
- ・審査員によって仲裁の仕方や重視する点が異なるのではないか
- ・優勝校等の準備書面を公表してほしい
- ・リーダーズ・キャンプは良かった
- ・プリンター等の設備を改善してほしい

## 8. 9回大会で大きく変わった点

- ▶ 問題についてのQ&A方式の廃止
  - ・問題に対する質問は基本的に全て問題の修正で対応
- ▶ リーダーズ・キャンプ
  - ・9月19日・20日に実施(各大学2名)
  - ・狙い:コンペティションの構成や規則、審査基準等についてより良く御理解いただくとともに、コンペティションの準備に役立つトレーニングや、審査員やOB・OGからより良い準備をするためのアドバイスを得る。
- ▶ 審査結果通知書
  - ・大会終了後、各大学の審査結果(順位、審査項目毎の得点)を希望大学に通知。大学単位とチーム単位を選択可。

# 9. 第10回大会に向けて

<アンケートを踏まえて>

## 1. 問題

- ▶ レベル等は現状維持
- ▶ Q&A方式ではなく問題の修正への一本化は維持
- ▶ 問題作成プロセスを充実させ、明らかなミスを減らす
- ▶ Q&Aによるチューニングは維持

## 2. 書面関係

- ▶ 交渉準備書面は字数を増やすとともに、提出時期を遅らせる

## 3. 審査

- ▶ 審査結果通知書制度は維持
- ▶ 審査の質の更なる向上に努力

## 9. 第10回大会に向けて

- ▶ 2011年12月3日(土)・4日(日)開催予定
  - ▶ 第10回大会を迎えることを機に、よりの層充実したコンペティションにするための施策を検討中
- ①運営体制の強化(運営事務局の整備等)
  - ②参加校の増加(特に、海外)
  - ③リーダーズ・キャンプの継続実施・充実
  - ④OB・OGによるサポート制度
  - ⑤継続的な交渉・仲裁教育・研究のための取組み  
(ワークショップ、リソースの共有、情報交換、交流等)